

「新型コロナウイルスの女性への影響に関するアンケート」の結果報告

【調査の概要】

1. 調査の目的

新型コロナウイルス感染症の拡大とそれに伴う緊急事態宣言を踏まえ、県民女性の現在の状況とこの問題の影響を尋ね、困っていることや不安等について性別による偏りがないかを把握し、結果をジェンダーの視点を活かした今後の女性への支援や事業企画等に反映させるために、具体的記述を中心とした調査を行った。

2. 調査の対象

島根県内在住の女性

3. 調査の方法

次の手段を用いて調査票を配布・回収

- ・島根県男女共同参画サポーター、あすてらすネットワーク会員への直接配布・回収(郵送またはメール)
- ・しまね女性の活躍応援企業等県内企業宛に郵送し、女性従業員への配布依頼(郵送、またはメール、faxにて回収)
- ・女性関連団体宛にメールで会員女性への回答依頼(郵送、またはメール、faxにて回収)
- ・あすてらすHP上に告知し、メールでの回答を促す

4. 実施の時期

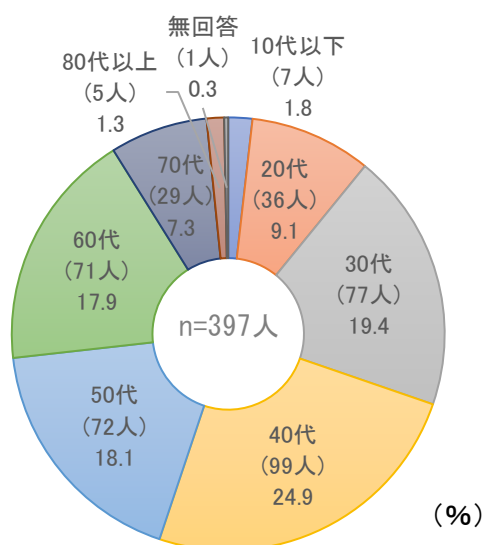
2020年5月中旬～6月16日

5. 調査主体

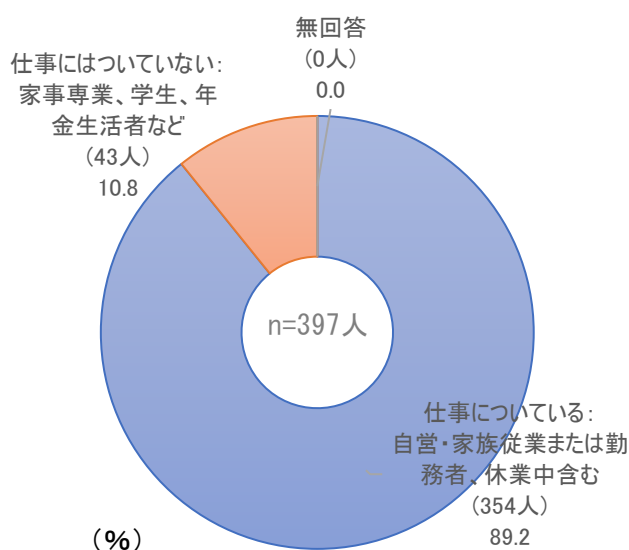
公益財団法人しまね女性センター

【回答者の特性】 ※有効回答数 397人

1. 年齢



2. 仕事の状況



【調査結果の概要】

●新型コロナウイルス感染症の流行によって、生活や仕事に悪影響が出ているか尋ねたところ、「既に悪い影響が出ている」とした人が176人(44.3%)と最も多く、「今のところ影響は出ていないが、長期化すると影響が出る不安がある」とした人(151人=38.0%)が続いている。「影響はない」とした人は70人(17.6%)だった。

●「既に悪い影響が出ている」を選択した人に、どのような悪影響(困ったこと)が出ているかを複数選択してもらったところ、最も多かったのは「趣味・楽しみや友人関係など家庭外の活動やつき合いに関すること」(116人=65.9%)で、次いで「健康や体調、新型コロナウイルス以外での病院受診に関すること」(55人=31.3%)が多く、3番目に「仕事の継続や働き方に関すること」(47人=26.7%)と「収入や生活費に関すること」(47人=26.7%)が続いている。

●仕事や収入に関する「悪い影響(困ったこと)」や「今後についての不安」の具体的記述には、勤務先や自営業の売上減少・業務縮小や、子どもの休校・登園自粛により、出勤調整や休業になり、収入減少の影響が既に出ている、不安を抱えているものが多数見られた。また、収入減少の一方で、自身や家族の在宅時間増加による食費・光熱水費、家庭内のオンライン環境整備、アルバイト収入の激減した自宅外から通学する子への仕送りなどで、支出増となった記述も複数見られた。

●仕事と家庭(私生活)のバランスや家庭内の役割分担に関する「悪い影響(困ったこと)」や「今後についての不安」には、子どもの休校や家族の外出自粛・在宅勤務等により、家事や家族のケアに要する時間が大幅に増え、疲労とストレスが増しているとの記述が多数見られた。

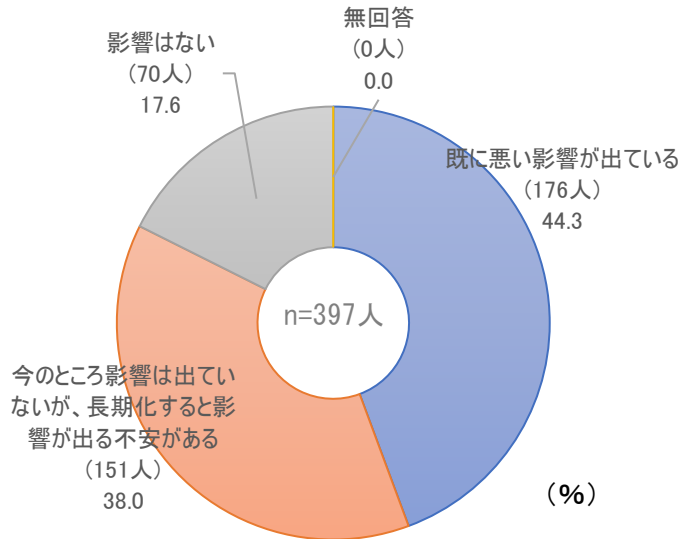
●健康や体調、病院受診に関する「悪い影響(困ったこと)」や「今後についての不安」には、新型コロナウイルスへの感染リスクを考え、自身や家族の通院や突発的な病院受診を控える傾向と、それによる健康悪化への懸念を示す記述が多数見られた。

●「今必要なもの、支援」についての具体的記述には、「お金」や「経済的支援」に関するものが最も多く、次いで、「マスクや消毒液などの衛生用品」に関するもの、「不安解消・ストレス発散やリフレッシュの場、相談先」に関するものが多く挙げられている。

【調査結果の詳細】

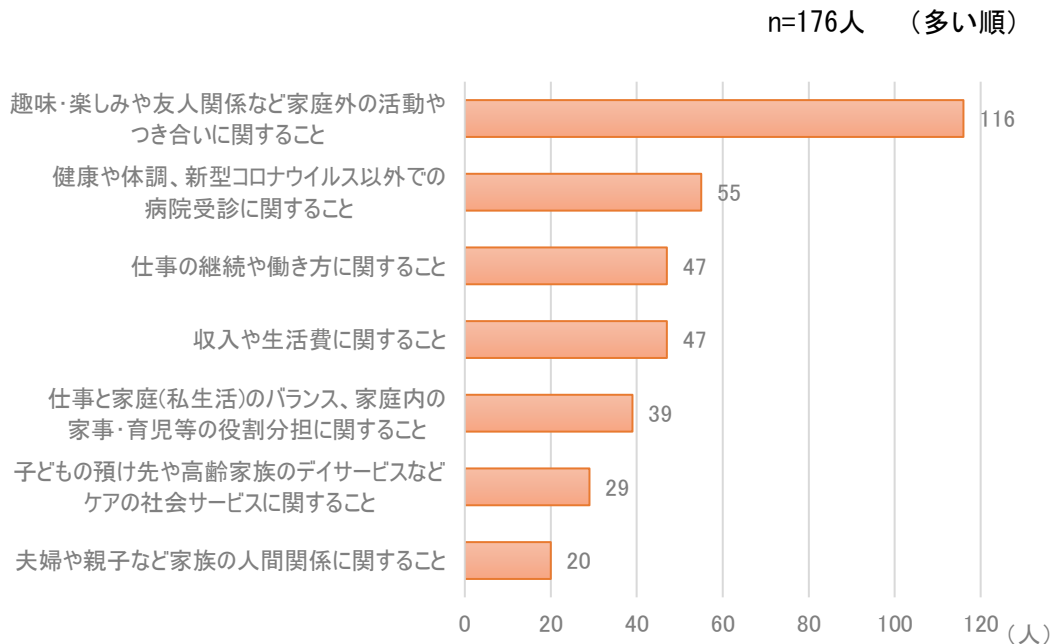
1. 新型コロナウイルス感染症の流行による悪影響の有無と内容

問「新型コロナウイルス感染症の流行によって、あなたの生活や仕事に影響が出ていますか」
(○は1つ)



(「既に悪い影響が出ている」と答えた方のみ)

問「どのような悪い影響が出ていますか」(○はいくつでも)



《自由回答》

※「どのような悪い影響(困ったこと)が出ているか、具体的にご記入ください」(回答者数 168 人)と、「今後について不安に感じる事があれば、具体的にご記入ください」(回答者数 155 人)とを、別々の回答枠で求めたところ、内容的に重複する記述が多数見られた。そのため、このアンケートの目的に関連のない意見や記述を除き、内容別に分類した上で、主な意見をまとめて紹介する。

(1) 趣味・楽しみや友人関係など家庭外の活動やつき合いに関すること

- ・外出自粛で、行動範囲・交友範囲が狭まり、人との繋がりが少なくなり、孤立化の怖れ。高齢者は特に普段から活動範囲が限られている上に、自宅でのオンライン利用も不向き。地域の繋がりの希薄化を元に戻すには時間も労力も大となるだろう。
- ・時々のランチや飲み会、勉強会、ジム通いなどが気分転換になっていたと感じる。今は家と職場の往復でストレスが溜まっていて、気力や体力の維持ができるか不安。
- ・運転免許証を自主返納して以来、歩いて行けるお気に入りのカフェや、バス・JRで美術館・コンサート等に出かけるのが日々の楽しみだったが、現在営業自粛中。なくなって初めてそれらが贅沢な時間だったなあと感じている。
- ・地域での「なごやか寄り合い」や「高齢者サロン」等の地域行事が実施できず、書面や電話、メールなどでは今後の対応等の話もなかなか進まない。これまで元気に参加して下さっていた方々や独居の方々が引きこもりになる可能性が心配。
- ・シングル女性とその子どもたちを支援する活動をしているが、イベント等ができなくなり、長期化するとシングル女性の孤立化が進むのではないかと心配。また、活動自体がしぼんでいく怖れもある。行政には「シングル女性」の現状把握の調査を行ってほしい。
- ・趣味の習い事が実施困難になり、展示会や県外研修も含め中止されている。今後再開するにしても、感染予防できる会場の確保が難しく、困っている。仲間とのコミュニケーションもなくなり寂しいし、生活に張り合いもなくなってきた。
- ・私には 30 人のお弟子さんがおり、独居で彼女たちの娘さんたちも帰省できないため、毎日 1~2 回ずつ電話して、買い物の手助けや元気確認をしている。
- ・老人介護施設や福祉施設で、ボランティアとして訪問介護を行っているが、現在活動できない。
- ・今後、集会やイベントが配慮しながら再開となっても、自身が運営する際にどこまで対応できるか不安。また、高齢の参加者への配慮も不安。

(2) 健康や体調、病院受診に関すること

- ・外出自粛で運動不足・摂取カロリー過多になり、体力低下、体調悪化に陥っている。
- ・これまで通っていた健康教室の代わりに家の中で運動しているが、仲間がいないので気持ちが晴れない。健康づくりは、単に体力維持だけではないと思った。
- ・慣れないマスク着用により、肩こり、じんましん、めまいなど体調不良が出始めていて、つらい。
- ・保育園に通う子が発熱時、病院に連れて行きにくい。37.5 度以上の発熱の際に総合病院は受診できなかった。
- ・持病の定期受診は電話での診察となり、検査も先送り、人間ドックもキャンセルで、処方箋のみもらっているが、いつまで続くか心配。
- ・体調の悪い母が病院へ行っても、思ったように治療してもらえずにいる。手術も延期で日程が決まらず、更に悪化するのはととても心配している。
- ・外出自粛による健康不安。大人も子どもも運動不足。特にずっと在宅していた子どもに顕著で、生活リズムも崩れも気になる。また、感染が心配で歯科受診も控えている。

- ・病院での感染が不安で定期受診を控えたら、逆に体調が悪くなった。
- ・糖尿病や高血圧等の持病や基礎疾患のある家族がいるため、感染が心配。身の回りの世話を私がしているので、万一自分が感染したらと考えるととても心配で気を遣う。通院に際しても細心の注意が必要で、オンライン診療の普及を望む。
- ・現在妊娠中で、胎児への影響を考えると、コロナに感染することへの不安がある。
- ・第2子妊娠中のため、妊婦検診時に第1子を一時保育に預けたかったが、コロナでできなくなり、夫が仕事を休まざるを得なくなった。また、コロナに感染しないかと、妊婦健診に行くのが怖いと感じた。
- ・医療体制が都会に比べ不十分なため、コロナでもコロナ以外の病気でも体調悪化した際に受け入れてもらえるか不安。
- ・毎日十分気をつけてはいるが、今後、自分や家族、職場の人に感染したら、大勢の人に迷惑をかけ、生死に関わるかも知れないと思うと不安な気持ちが募りストレスが溜まる。
- ・自粛中も出勤しなければいけない家族がいたが、高齢者も同居しているため、感染の不安があった。また、高齢家族の通院にも不安がある。
- ・三世同居なので、孫が保育園で感染すると不安。これまでも保育園で流行った風邪や胃腸炎は必ずうつされたので。
- ・一人住まいなので、体調を崩した時、必要なところへ連絡できるかが不安。

(3) 仕事の継続や働き方に関すること

- ・現在テレワークが導入され、週交代で勤務中。テレワークのできる仕事には限りがあり、その分出勤日の作業はかなりの量になってしまう。
- ・コロナ以前の業務内容とは違う業務をすることになり、慣れないために心身ともに疲れる。
- ・職場で女性がするのが当たり前と思われているお茶出し、洗い物、ゴミの始末、トイレ掃除にストレスを感じる。やるのがイヤという訳ではないが、感染予防を考えるととても神経をつかうので。
- ・子どもの休校に伴い、仕事を休むしかないで休んだ。職場は休ませてくれたが、休んでいる間、他の人たちの業務負担を考えると気を遣うし、復帰してから自分自身の滞っていた業務を片付けるのに時間がかかった。
- ・学校が休校になり、家庭で子どもをみるため、在宅勤務体制を会社が取ってくれたのだが、子どもが一緒だと家で仕事に集中することはできない。結局、厚労省の特別休暇扱いで、半日休暇を取ったが、こうした対応は周りの社員にも気を遣う。
- ・勤め先の受注が減り、当面休業となった。この先倒産しないか心配。
- ・勤め先で今後受注が減り、売上高や利益も減少する可能性がある。そうなったら、会社の存続のため、今後雇用調整などが行われる不安を感じている。
- ・シングルで小学生の娘を育てているが、今は正社員で職場も休みになっていないものの、今後長期化して会社自体の売り上げが下がった場合、働き続けられるのか不安。学校の長期休校で生活費の出費も増え、頭を悩ませている。生きるために何か副業を・・・とも考えている。
- ・県外への営業活動の機会が制限され、手続きが進まなかったり、事業活動自体も縮小傾向にある。国の予算編成も変わり、業界全体への悪影響の可能性も心配。
- ・仕事上、多くの人との密な接触が避けられず、日々不安とストレスとの闘いである。
- ・県外からの来客もある職場なので、自分も感染しないか不安。
- ・長期化すれば、自分や家族、会社の同僚に感染者や濃厚接触者が出る場合もあるだろうし、その時に会社の業績に悪影響が出れば雇用面で不安がある。
- ・キャンセルや無期延期になった仕事があり、それに伴って収入も減っている。
- ・パート先の仕事の受注が減ったため、休みを多く(週1日)取るよう言われた。勤務時間が減らされて、

給料の支給額が減った。

- ・今後、第2波、第3波がやってきた場合、出勤調整等があったりして自宅待機などが出てくると、パートのため収入が途絶えてしまう不安がある。
- ・仕事量が激減し、事業計画も不透明なままで、いつ通常通りの仕事に戻れるのか。契約社員なので、この先の雇用に不安を感じる。
- ・春から専門学校に通いながらアルバイトで生活費を稼ぐ予定だったが、コロナでアルバイトは白紙、学校も休校で家で自粛生活中である。長期化する中で、自分も子どもたちもイライラが募ってきている。
- ・産休・育休を経て4月から子どもを保育園に預けて職場復帰する予定だったが、コロナの影響で自宅待機となり、転職後間もないため在宅での仕事も同僚のようにはもらえず、社会から取り残されたような気分になった。ずっと収入もなく、きっと補償ももらえないだろう。悲しいし、先のことを考えると不安になる。
- ・訪問看護の仕事に就いており、いつもにも増して細心の注意を払う必要。利用者から「利用の制限をしたい」と言われた。
- ・福祉関係の仕事なので、事業所利用者様の体調管理、対応の方法等、職員間のコミュニケーションの取り方で大変困った。先が見えない状況下で、精神面での対応が必要な方も多く、職員を含め皆が同じ立場であることは理解できても、職場内の雰囲気が悪くなっていったと感じた。
- ・ケアマネージャーとして働いているが、利用者への訪問を自粛しなければならなくなり、適切なケアプラン作成やサービス向上が困難になっている。また、ケアマネ業務の更新研修も受けられなくなっている。
- ・夫が看護師で、市内で感染が発生したら対応することになっているので、影響が大きいと思う。家族がコロナ対応をするという理由で有休が発生するわけではないが、自分が仕事に出て職場でクラスターを起こしたりする可能性を考えると心配でならない。状況次第では自主的に退職しなければならないのか悩むし、その場合、経済的な不安が大きい。
- ・子ども対応の職種で、休校や外出自粛の影響で出勤日数・時間が減ると、それがそのまま収入に反映されてしまう。
- ・保育園の管理職だが、子どもを持つ職員の勤務体制の変更などの対応や、施設利用者の体調管理や体調を崩した場合の対応が不安。
- ・保育園勤務だが、自粛期間中には各家庭に協力してもらったため、保育園に通う子どもの数が少なくなり、通常通りの保育活動が行えなくなった面もある。(例:制作活動など)行事なども今後どうなるかわからず不安。
- ・服飾の自営業…全く商品が売れなくなり、支払等に困っている。
- ・経営している飲食店の営業自粛、再開後も客足は戻らず、開店以来初めての赤字になった。
- ・自営業だが、外国からの材料の納品が遅れている。また、生活必需品ではないため、皆に金銭的余裕がないと買い控えが進むのではと不安。
- ・畜産・稲作を複合経営しているが、畜産の方に大きな影響が出ている。肉が売れなくなり、価格が下落した。このままこの状況が続けば経営継続は難しくなるだろう。
- ・対人関係(観光・飲食・サービス業、相談業務)の職種、イベント関係の職種で売上、仕事が激減。それに呼応して収入も激減。

(4) 収入や生活費に関すること

- ・いつ給与やボーナスがカットになるか不安。既に夫の収入も減っていて、ローンの支払いもあるので、ボーナスが減ると厳しい。
- ・今後収入が減る可能性があり、県外の専門学校へ通う子どもへの仕送りが滞ることになる不安がある。

- ・元夫から子どもの養育費を減額したいと言われた。断ったが、長期化するともらえるのか不安。
- ・息子と二人で生活費を出し合っているが、息子の会社の休業が続き収入減となって生活費のやりくりが大変になった。まだまだ先の見通しが立たず、いつまで続くのか不安。住宅や車のローンがあるが、支払いできない。
- ・家族の勤務先の仕事が減り、収入も減ったので金銭サポートの必要が今後でくる。
- ・自分はパート職員で収入が低いので、長期化して夫の仕事に影響が出て休業になったら、家計収入が減るので心配。
- ・子どもの休校で仕事に出られず、収入が減った。
- ・夫の勤務先の業績不振が続くようなら、家計収入全体への影響が大きくなると予想される。
- ・子どもの休校、大人の在宅勤務など、家族全員の在宅時間が長くなり、食費も光熱費も増加した。反面、学費や教材費などは減額されることもない。再び子どもが休校になった場合、食費と時期によっては電気代が増えることが不安。
- ・受験生の子どものオンライン授業に伴う出費が増え、収入は減らないまでも経済的に大変。
- ・家を出て学生生活を送る子どものアルバイト収入が激減しているため、授業料や生活費援助の負担が増える可能性がある。
- ・子どもの大学が帰省禁止となり、食料や日用品を送るなどの支援を継続中。
- ・感染拡大防止のための様々な物品が不足しているため、価格が高騰し、支出が増えているのが負担。
- ・個人的にというよりは、地域のお店などの営業自粛や客足減で、町全体の経済が心配。

(5) 仕事と家庭(私生活)のバランス、家庭内の家事・育児等の役割分担に関すること

- ・これまで楽しみにしていた、時々のお食事が出来なくなった。楽しみがなくなっただけでなく、毎日三度の食事作りに頭を悩ませることが多くなった。
- ・子どもの休校で習っていない内容が宿題になったりして、子どもたち全員が父親でなく母親の自分に訊いてくる。教えるのに時間を取られるが、仕事は通常通りで時間のやりくりが大変。
- ・子どもがずっと家にいても、家事の分担はこれまで通りなので、炊事が大幅に増えた。
- ・子どもの休校が長く続いたため、家事や育児(学習面のケア)の負担が増え、また、出費も増加した。
- ・職場では、小さい子どものいる女性の方々が休まざるをえず、今は他の者たちで何とか回しているが、仕事が多いときなどは大変で困る。
- ・保育士の仕事は休めないのに、家事分担は今までどおり。コロナで仕事が休みになった家族が家事をしないので、ストレスを感じる。
- ・自身も家族も納品先の休業・閉店・自粛や営業訪問禁止などの影響で、販売が減少し収入が激減した。また、これに伴って時短勤務・休日増となり、今まで単身赴任だった家族も含め在宅時間が家族全体で増え、家事が激増したので、ものすごく負担に感じる。
- ・仕事は総務で、新型コロナへの対応のため業務過多となっているが、一方で子どもの小学校は休校。不安でも預かってくれるところがない。また、子どもの学習の遅れも心配だが、丁寧に見てやる時間が少ない。さらに、今まで以上に食事の世話に追われるようになり、疲労と寝不足が深刻である。
- ・在宅勤務、子どもの休校などで家庭内で過ごす人数が多くなると、家事(特に食事の準備など)が女性の負担になる。飲食店に行けないことが物理的にもストレス解消という意味でも負担。
- ・自粛しないといけなかったが、子どもの休校で給食がなくなり、ほぼ毎日買い物に出かけないと食材が調達できなかった。仕事もあり、時間のやりくりが大変だった。
- ・子どもをみる人が自分以外にいない。長期化したり、感染者が出たりして保育園が休みになったら、途端に仕事と家庭のバランスが取れなくなる。
- ・休校の影響もだが、子どもが発熱しやすい体質で、体温を頻繁に測るようになり、なかなか通学ができ

にくくなった。そのため、仕事とのバランスが大変。

・休校中、新一年生の子は宿題がこなせず困った。自分だけではできないし、学童も教えてはくれない中で、仕事から帰って家で教えてあげるしかないが、仕事を持つ親にとっては宿題の量が多すぎると感じた。土日にこなすのも、平日の溜まった分に時間を費やすため、大変だった。さらに、子どもはイレギュラーな弁当持参もあり、時間のやりくりが本当に大変だった。

・小中学校の休校で、子どもたちの在宅時間が長くなった分、部屋も散らかり掃除の時間が増え、日中の食事の用意も増え、食費もかさんだ。

・ウイルスの影響で保育所に子どもを預けられない場合、家庭で保育をするのは主に自分で、今は有休を取って対応しているものの、いつ終わるかのめどが立たず有休がなくなった時にどうしたらいいかわからない。夫の仕事柄、家事のほとんどが自分にかかってきて大変だし、かつ、外出自粛や他者との交流制限もあり、自分も子どももメンタルのケアが大変。実家やきょうだいにもウイルス感染のリスクを考えると頼れず、コロナでなくともとにかく体調を崩せないことへのプレッシャーがきつい。

・職場では通常とは違った仕事が増え、長期に渡る超過勤務で土日の休暇も取れない。共働きなので、普段は夫も家事をしていたが、コロナの影響で夫も仕事が増えて休暇も取れず、家事全部が自分に回ってきた。常に忙しく時間がないため、掃除ができないし、仕事の帰りが遅いので買い物もできない。忙しくて体調不良でも、職場の他の皆もがんばっているので休みにくい。

・子どもの分散登校に伴い、不規則な時間での送迎が大変だった。

・子どもの学校や習い事に関して生活リズムに変化が生じると、その都度調整が必要になり、少なからず仕事にも影響が出る。有休の取得は、これまで学校行事に合わせて年間で計画的に取っていたのが、今できなくなっている。

(6) 子どもの預け先や高齢家族のデイサービスなどケアの社会サービスに関すること

・子どもだけで家で留守番をさせているのが心配。

・日中子どもたちだけで留守番しており、きょうだい間に序列ができ、下の子の怒りやストレスの矛先がどうしても母親である自分に向かうため、精神的に参るが自身の発散方法がわからない。

・仕事があるため、登園、登校自粛の中でも毎日通わせており、申し訳なさを感じる。

・現在育休中で、子どもを支援センターで遊ばせたいができないため親子でストレスが溜まっている。

・児童クラブが休みになり、会社を休まなくてはならなかった。

・小学校の臨時休校に合わせ、保育園からも自粛要請が出て、実家の両親に預けたが、両親は突然4人の孫の面倒をみることになり、それが結局1カ月も続いたので、申し訳なかった。高齢で身体への負担が心配だが、かといって自身が子どもを見ながらテレワークするのは難しく、仕事にならない。

・休校により、一人での留守番が難しい子どもの預け先について困っている(子の居場所を設けてはくれたが、利用にリスクが伴うため)。これまでは、基礎疾患のある祖父母等、高齢家族に子どもを預けていたが、預けた場合の感染リスクが怖くて預けられない。

・子どもの学校休校と保育園の土曜休園が重なり、両親や義父母ばかりに頼るわけにいかず、仕事を早退したり休みを取ったりする必要があった。

・子どもの学校休校や行事の縮小で、学校で本来できるはずだった経験(例: 体育のプール)ができない事や学習の遅れが心配。再開した今も分散登校のため、給食もなく子どももがっかりしているし、食事の準備も大変。

・県外に住む娘の子ども(孫)の保育園が休園になったが、普段なら援助に行ってやるところ移動自粛で手伝ってやれず、在宅で育児するしかない状況。相当負担も大きいと心配している。

・県外在住の娘夫婦は在宅勤務が難しい仕事に従事しており、孫の保育園の通園自粛で5月いっぱい娘のところへ滞在して孫の育児をすることになった。

- ・病児保育に預けたくても今は預けられず困っている。
- ・今後保育園が休みになったり、預かってもらえなくなると、子どもが小さいので在宅ワークは恐らく無理だろう。そうなると、仕事を休む事になるので、生活面で不安がでてくる。
- ・子どもが保育園で感染しないか心配。でも、仕事もあり、休園になっても困るので、どちらにせよ不安。
- ・再開した子どもの学校が再び休校にならないか心配。
- ・子どもたちの学校の行事(修学旅行等)や部活動の中止に伴う子どもへの影響が心配。
- ・子どもたちは、部活、スポ少が中止となり、運動時間減、体力低下、メディア時間増などの悪影響。
- ・孫の学校が休校になり預かっているが、休校が長引くと自身の体力がもつか心配。
- ・介護中の姑がウイルス感染したり病気にならないよう細心の注意を払う必要があり、精神的に疲れる。
- ・両親がデイサービスやヘルパーのお世話になっているが、コロナでサービスが止まったら自宅で世話ができないのでとても困る。入浴介助ができないし、仕事の休みも取りにくいので、仕事ができなくなるのではという不安がある。
- ・同居している両親(80代)の体調が気がかり。3週間前に膀胱炎になった時は家庭医の処置が早く完治したが、入院などになったらどうしようと不安が募る。
- ・認知症の母が最近グループホームへ入所したが、それ以来会えないでいる。コロナの影響でホームが閉所になったら、とても困る。ホームのスタッフの方々も緊張の中で仕事をしておられるだろう。
- ・施設に入所中の高齢の父母の面会に行けない。
- ・高齢家族が通うデイサービスが中止になり、家族は本人から目が離せずゆっくりできる時間がなくなり、ストレスが増えている。
- ・入院中の祖母と面会ができず、認知症が進んでいる。
- ・高齢家族が入所している介護施設でクラスターなどが起こると、介護の負担が大きくなるのではないかと不安。

(7) 夫婦や親子など家族の人間関係に関すること

- ・今は、数ヶ月経って良好になったが、仕事環境が激変したので、夫婦で意見の衝突も多くなり大変だった。
- ・家族での会話の全てがコロナに関することになり、愚痴や不満を聞かされることがストレス。
- ・嫁ぎ先がお寺で、緊急事態宣言後も義父母や夫のお寺での働き方(来客対応、お祭り、出張など)が以前と変わらないことに疑問が強い。何度も訴えて話し合ったが聞いてもらえず、家族に不信を抱くようになった。
- ・休日でも遊びに連れて行けず、家で子どもとずっと一緒にいることで、互いにストレスが溜まり、子どもとのケンカも増えた。
- ・保育士をしているため仕事は休めず、子どもは両親に預かってもらって仕事に出ているが、両親からの小言が増え、子どもにも多少のストレスになっている。
- ・高齢家族の運動不足と、それ以上に会話不足を心配している。
- ・以前から実家の高齢の父の農作業等の手伝いに行っていたが、父には糖尿病、COPDなどの持病があり、万が一自分がウイルスを持って行ったらと思うと怖い。以前のように一緒に食事をしたり話したりできない。行かないと父の生活が成り立たないので行くが、とても気を遣っている。
- ・県外にいる子どもや孫たちは帰省ができず、寂しい。
- ・実家の親になかなか会えない。
- ・子どもの結婚式が延期の上、新たな日程も決められない。
- ・県外の親類の葬儀にさえ参列できなかった。
- ・家族旅行等の機会が減ったり、遠方の親族との接点がなくなると、後に人間関係に支障が出る可能性

がある。

・家庭内に関して、心配な面もあるが、家庭の時間を多く取ることができたのは良かった。いつもは忙しくてなかなか一緒にいることが出来ない。

(8)その他

- ・衛生用品が常に不足状態で、買い足すことができず困っている。
- ・自粛について、個々に認識の差があったり、マスク等の購入が難しいのに買い占めしている人がいたりすると、狭い地域なので人間関係が殺伐として地域の絆が危ういと感じる。
- ・病院受診したり、咳をするだけでも変な目で見られると感じることがあり、差別意識が出てくるのが怖い。
- ・子どもの就活の求人減少で、就職できるのか心配している。
- ・マスクを嫌がる年齢の子(2歳)がいるが、どうしても買い物に連れて行かなければいけないことがあるものの、周りの目が気になる。
- ・コロナ禍で災害になった時の避難等に不安がある。
- ・自粛期間中に家の中の掃除・整理ができたり、庭仕事のはかどったことは良かった。

2. 今必要なもの、支援

※「あなたにとって、今必要なもの、支援は何ですか？具体的にご記入ください」との問いには、244人からの回答が得られた。また、自由記述形式にも関わらず、下表のように重複する回答がいくつも寄せられた。このアンケートの目的に関連のない意見や記述を除き、内容別に分類した上で、主な意見をまとめて紹介する。

問「あなたにとって、今必要なもの、支援は何ですか？」

n=397人（主な記述、多い順）

お金、経済的支援	68件
マスク、消毒液などの衛生用品	33件
不安解消・ストレス発散やリフレッシュの場、相談先	21件
元通り・普通の生活、活動等の再開	14件
(行政からの)正しい情報と対処	13件
子どもの預け先、居場所	12件
コロナのワクチン、特効薬	11件
コロナの終息	7件

《自由回答》

(1)お金、経済的支援

- ・金銭的な支援があれば解決できることも多く、不安も少しは解消されるだろう。
- ・若い世代や学生が心配。
- ・女一人暮らしでとても不安なので、老後の資金となる金銭的援助。
- ・世帯主でなく、個人への給付金。
- ・お金。収入減でも保険料やローンの支払いなど、金額の大きいものは必ずしないといけない。
- ・政府の対策は支援を受けるまでの手続きが面倒で途中で諦めてしまう人もいと聞く。簡単に手続きで

き、かつ、本当に困っている人に迅速に支援が届くようにしてほしい。今後、失業した場合、雇用保険支給の条件(自己都合等)緩和や支給期間等の見直しを希望する。

・給付金の手続き～支給まで時間がかかっている。仕方のない面もあるだろうが、収入が減り、支出が増える中では、待っている間も苦しい。国からの給付に時間がかかるなら、市として早急に対応できる独自の給付などがあると助かる。また、長期化や第2波が予想される中では、追加の給付金等の支援も必要になる。県や市が「県民」、「市民」のことを考えてくれているんだなあと思えるような、何か生活の足しになるような支援(お金以外でも)があると今後も頑張れると思う。

・現在就活中の自分の子が就職困難にならない対策として、中小企業への求人のための給付金(助成金)を強化してほしい。

・「取りあえずマスク」という考え方でなく、それにかかる経費を困っている人へ回してほしい。また、10万円給付等、各種給付も申請をもっとシンプルに分かりやすくしてほしい。

・長期化し、運転資金が不足した場合の資金援助。

・医療従事者の方々へはボーナスをあげられるくらい、医療機関への経済的支援。

・自営業が逼迫しているので、持続化給付金や雇用等の給付金の申請をわかりやすくできるようにしてほしい。

・飲食店、観光業、イベント関連業への支援。再び感染拡大することのないように必要な情報、そして対策のための経費。

・長年、自営業(飲食店)でがんばってきたが、営業自粛となり、自営での収入はゼロとなった。70歳を過ぎているので、国民年金をもらっているが、こうした状況なので、せめて年金を増額してもらいたい。男女関係なく、自分の裁量で稼いでやってきた事への自負もあるので、こうした状況になってとても悔しい。

・休業要請により収入が激減してしまったので、せめて最低賃金を保障してほしい。(国の10万円の給付金はすぐに底をついてしまう。)

・自粛中に増えた食費などの支出を補助する経済支援。

・「子育て世帯に金銭的支援を!!」今回の休校で、休校中の教材や家で過ごすための用品など、出費もかさんでしまっている。子ども手当の上乗せ以上の支援がほしい。

・休校中、食費が今まで以上にかかり、学校でなく児童クラブへ行ったための預け代などもかさんだため、少しでも生活の助けになるもの(現金や商品券)がほしい。

・ステイホーム期間中、食費が今までより多くかかってしまったので、その分に充てられる現物(長持ちする食料品)や現金等を支援していただければ嬉しい。

・子どものため、wifi環境とパソコンがほしい。オンライン授業になるのが怖い。

・子どもたちがオンラインで学習できる環境整備への支援、補助金。また、ノウハウについての詳しい説明。パソコン、タブレット購入やwifi環境の改善に数十万かかる。学校は再開しても、今後備えて環境は整えておかなければならない。

・どの家庭も出費は一律に増えているので、収入減の家庭だけでなく学生に対する支援など経済的に一律の支援がほしい。また、子ども手当も、一人親とか子どもが多いとかで決めずに一律の支援がほしい。

・長期化するようであれば、追加で、または継続的にもらえる給付金。あるいは、在宅でも収入を得ることが出来るスキルの習得の場。

・地元で利用できる商品券。

・今後県をまたぐ移動ができるようになった時、交通機関にかかる料金の割引。

(2) マスク、消毒液などの衛生用品

・マスク、消毒液が不足している。普通の価格で購入できる、物資供給の安定化を。手作りマスクでは不

安。

- ・マスク等はいざという時に買えるよう市役所等に在庫を確保し、チケット等で購入できるようにしてほしい。
- ・学校におけるウイルス除去機能つき空気清浄機、消毒液の噴霧器の設置。
- ・買い物時買い物かごを消毒したいが予備が少ししかない。
- ・ケアマネジャーの仕事を継続するために、マスクや消毒剤の確保。
- ・マスクが足りない。相談対応の仕事をしているのでマスクは必需品だが、買えても高価。
- ・机の周りの囲い。
- ・訪問看護の仕事をしているが、医療的処置を必要とする利用者さんの中には、必須のアルコール消毒液や手袋が手に入りにくい状況が続いている。アルコールは店頭に出回りつつあるとはいえ、手指消毒にしか使えない度数の低いものが多いので、困っている在宅看護の方が多い。医療機関や施設だけでなく、在宅で看護・介護生活されている方たちに必要な物資が届くよう、配慮してほしい。
- ・夏用の涼しいマスクがほしい。保育士という仕事柄マスクをするが、熱中症になりそうで苦痛。
- ・県外に住む子どもたちにマスク、消毒剤等足りず、こちらで買って送っていたがなかなか買えない。取りあえず身近な物が手に入る必要がある。
- ・これから生きるための衛生上の知識を全ての人に与える教育。

(3) 不安解消・ストレス発散やリフレッシュの場、相談先

- ・日々、仕事と子育てで慌ただしく過ごしており、回答を考える時間さえない。あえて言うなら「心の余裕」や「ゆとり(時間)」でしょうか。
- ・相談できる人たちがほしい。
- ・(現在第1子の育休中で第2子妊娠中)子育ての悩みや不安を話せる機会や場(ストレス発散や不安解消のため)、または電話相談。
- ・勤め先に、子どもさんがコロナへの恐怖に駆られているという同僚がいる。子どもも大変だろうが、こうした子どものケアをする親も大変だと思うので、休校になって負担の増えた親の方々への支援があると良いと思う。もちろん、経済的支援も必要だが、同時にこうした負担の増えた方向けの精神的支援、仕事と家族のケアとを両立するための支援も必要。
- ・子どもも心配だが、休校中は親も仕事との両立が大変で人手がほしかった。こうしたストレスを受け止めてくれるような相手とのコミュニケーションのような支援もあると良い。
- ・みんなの溜まっているストレスを発散する場。リフレッシュの場。
- ・気持ちをリラックスさせ、前向きな気持ちにさせる方法。
- ・親しい人と直接会ってゆっくりおしゃべりできる時間。

(4) 元通り・普通の生活、活動等の再開

- ・集まりやイベント、屋外活動、お店の再開。
- ・安心して買い物や家庭外の活動ができる環境。
- ・義母の住んでいるところが遠く、これまで買い物の手伝いをしていたのが今は移動自粛で難しいので何とかしてほしい。
- ・休校や様々な活動の休止・休館のため、子どもたちは学習が遅れ、様々な体験をする場を失っている、こうしたことを補う対応策。
- ・民生児童委員の戸別訪問の再開。
- ・仕事の量は減ってはいるがないわけではない。ただ、これまでとは違う業務になり、それも覚えている最中だが、通常の業務に戻りたい。

- ・インターネット等、会わなくても仕事ができる仕組みや環境設定、操作方法などを学びたい。
- ・今後を考えると、新しいサービスを創造するための専門家のアドバイスや知恵が必要。
- ・美術館の開館、美しいもの。

(5) (行政からの)正しい情報と対処

- ・感染経路の詳細な情報。
- ・正しい情報と迅速な告知、見通し。行政の対応・指示・補助。して良いこととダメなことの線引き。
- ・県として、これからの国内の感染状況を的確に把握し、県民を守る素早い判断と行動を起こしてもらえよう、各市町村の長としっかり連携を取ってもらいたい。
- ・市内でコロナウイルスの感染が確認された場合、市立病院で適切な対応がしてもらえるのか医療体制に不安を感じている。特に、感染の終息の目処が付かない中で、何らかの災害が起きて避難の必要が出てきた時は、どうすれば安全なのかなど、行政から細かい情報を出してほしい。
- ・シングル女性自身の現状をしっかりと把握するための調査の実施を行政にはお願いしたい。声の小さい人たち(聞いてもらえない人、声を届けにくい人)の声を聞く努力をお願いしたい。
- ・政府や、県、松江市がどんな対策を打っているのか、一覧表のようなものがあると良い。
- ・何でもオンラインで手続きや情報取得できるようデジタル化してほしい。(例えば、マスクのある店の情報、保険証でのマスク購入、給付金の申請等々)
- ・インフルエンザ流行と重なる可能性を考えて、早めの情報提供。
- ・対策を万全にしている施設の情報。
- ・コロナ禍での、災害時の避難場所をあらかじめ知らせてほしい。
- ・コロナに関して、あすてらすの活動状況を知らせてほしい。

(6) 子どもの預け先、居場所

- ・学校の継続。学童の延長。
- ・子どものストレスを何とかしたいので子どもの居場所がほしいが、他人との接触が難しいのも理解しているので仕方ないとは思っている。
- ・短時間でも良いので、子どもを安心して預けられる環境の整備をしてほしい。子どもが休みになると、親も休まざるを得ず、生活への影響が大きい。
- ・この先、子どもが通う保育園が休園になった場合、子どもの預け先があると安心である。(職場に特別休暇制度があるため、私が仕事を休めば何とかなるが。)
- ・県内は学校も再開したが、コロナが怖くて学校に通えず、仕事に出てこられない家庭の人もある。そうした方への生活費支援、子どもを預けられる場所の確保等の支援があると良い。
- ・学校が休校になっても安心して休業できる制度をもっと簡単に手続きできるようにしてほしい。

(7) コロナのワクチン、特効薬

- ・感染拡大しないためのワクチン。罹っても悪化しない薬。

(8) コロナの終息

- ・早期の感染終息。
- ・早く終息して畜産全体に早く活気が戻ってほしい。

(9) その他

- ・コロナ禍の中、会社では今まで当たり前だったことを見直す意識が必要だと思う(特に男性)。会議の際

の茶菓子の提供・片付けや弁当ガラの始末、男子トイレの掃除など、これまで女性従業員がやって当たり前とされてきたが、今はそれらにも感染の危険が伴う。会でも出された物や弁当ガラなどは自分で出したゴミなので、自分で持ち帰って始末するのが当たり前だという社会になってほしい。お互いに気持ちよく仕事をするためにも。

・現在はなくなったが、休校中は、仕事もしながら子どもの勉強を見て食事の用意をしようと、目の回るほどの忙しさだったので、家事が楽になる支援や配達の食事などの支援があれば、もっと両立しやすかった。

・仕事と家庭のバランスが取れるように、仕事内容を整理してほしい。そういう職場。

・今回のコロナをきっかけに、職場、家庭ともに、働き方、家事分担のあり方を見直すことにつながれば良いと思うのだが…

・より安全に病院を受診できるよう、病院と医療従事者への支援拡大。

・コロナに限らず、これから起こりうるであろう災害に対してスピーディに支援が行えるよう体制づくりの強化をお願いしたい。

・自分が感染した場合の、自宅での看護と家族の介護支援。

・感染者への嫌がらせ規制。

・十分な食材のストック。

・今回のアンケート結果を公表していただきたい。今後の取組の参考にしたい。